

日本顕微鏡学会 ソフトマテリアル分科会 第18回講演会のご案内

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日本顕微鏡学会 ソフトマテリアル分科会では、「ソフトマテリアル分科会 第18回講演会」を開催いたします。

7月に行われた第17回講演会では「ソフトマテリアルを走査型電子光学系で観る その1」をテーマに、多くの方々にご参加いただき、活発な議論が行われました。今回の講演会では、引き続き「ソフトマテリアルを走査型電子光学系で観る その2」をテーマとして、古典的な染色技術から最新の無染色観察、さらには走査型光学系を中心とした、その場観察・オペランド計測、構造/物性相関まで、ソフトマテリアルの観察手法を横断的に取り上げます。また、ソフトマテリアルの試料作製や観察などに関するお困りごとをご相談いただける「わいわいクロストーク」、2022年度より始動した、ラウンドロビンテストに関する円卓会議も予定しております。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

研究会テーマ:「ソフトマテリアルを走査型電子光学系で観る その2」

主 催: 公益社団法人 日本顕微鏡学会 ソフトマテリアル分科会

責 任 者: 東北大学 多元物質科学研究所 陣内 浩司

開 催 日 時: 2026年12月10日(木) 13:00 – 12月11日(金) 正午頃予定

場 所: 東レ総合研修センター (411-0032 静岡県三島市末広町 21-9)

開 催 方 法: 一泊二日、現地対面開催

参 加 費: 会員：25,000 円 非会員：30,000 円 学生：15,000 円

※参加費には、宿泊料、12月10日(木)夕食、12月11日(金)朝食の費用が含まれます。

※部屋は全室個室です(相部屋はございません)。

※1日のみの参加をご希望の場合は個別に事務局までご相談ください。

申 込 方 法: 2026年11月25日(水)まで、下記申込フォームよりお申込みください。

<https://forms.gle/eqAUS6NFuSAfFbH67>

クレジット決済: メールリンク方式にて、クレジット決済をご利用いただけます。

申込フォームにて「クレジット決済希望」にチェックを入れてください。

後日、個別に決済用 URL をメールにて送付いたします(送信までに1週間程度お時間をいただく場合がございます)。

銀 行 振 込: ゆうちょ銀行【店名】〇一八(読み ゼロイチハチ)【店番】018

【預金種目】普通預金 【口座番号】9922872

【口座名義】シャ)ニホンケンビキョウガツカイ

2026年12月4日(金)までにお振込ください。

請求書・領収書について: 押印した請求書が必要な場合は、参加フォームの「事務局への連絡事項」の欄にご記入をお願い申し上げます。

インボイス制度の開始に伴い、領収書の発行は当日会場での配布とさせていただきます。

領収書の宛名、内訳、但書等にご希望につきましても、申込フォームによりご連絡ください。

講演概要: (敬称略)

- ・「OsO₄ 固定機序と電子染色機序」 (チュートリアル)
朴杓允 (神戸大学 名誉教授)
- ・「走査電子顕微鏡による生物試料の三次元形態解析」 (チュートリアル)
甲賀大輔 (旭川医科大学)
- ・「STEM 結像の基礎 – 「見える」のしくみを理解する」 (チュートリアル)
阿部 英司 (東京大学)
- ・「Cryo-STEM tomography による無染色試料の3次元構造解析」
青山一弘 (サーモフィッシャーサイエンティフィック)
- ・「コヒーレント X 線により可視化するソフトマテリアルのミクロ-ナノ階層構造と機能」
高山裕貴 (東北大学)
- ・「SEM の各種検出器によって異なるソフトマテリアルの観察」
野久尾毅 (日本電子株式会社)
- ・「Raman 分光法および SEM-Raman 複合解析法が拓くソフトマテリアル研究」
加藤 隆一 (レニショー株式会社)

※プログラムの詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。

わいわいクロストークについて

12月10日(木)の夕食後、お酒を片手にリラックスした雰囲気の中で、試料作製や観察に関する疑問・課題を語り合う「わいわいクロストーク」を開催いたします。研究現場での「困りごと」を参加者同士で気軽に共有・ディスカッションできる場です。ぜひご参加ください。

事前話題募集！

「わいわいクロストーク」にて、当日取り上げる話題を事前に募集いたします。
参加申し込みの際に申込フォームへご記入いただくか、下記宛先までお送りください。
話題受付締め切り：12月4日(金)

【問い合わせ・わいわいクロストーク話題宛先】

事務局:東北大学 多元物質科学研究所 陣内研究室 小林
TEL: 022-217-5329
E-mail: sachiko.kobayashi.c8@tohoku.ac.jp

ラウンドロビンテスト円卓会議について

当分科会では、2022 年度よりラウンドロビンテスト（以下、RRT）を実施しています。

この企画を立ち上げた背景には、ソフトマテリアルの研究に新たに携わる方々が形態観察を行う際、生物系試料では先行研究や先達の知見を参考に試料作製を比較的容易にトレースできる一方で、材料系試料では前処理方法や条件に関する情報が十分に得られないという課題がありました。

では、詳細な方法や条件が論文等に記載されていないのはなぜでしょうか。また、それらが明らかになれば誰もが同じ結果を再現できるのでしょうか。こうした問いについて考察し、検証することを目的として、RRT への参加を呼びかけました。

初回は自動車用バンパー材、第 2 弾では ABS を共通試料として、各研究機関や企業の初級者から熟練者まで数十名の研究者に配布し、それぞれの方法で試料調製と観察を行っていただきました。その結果を円卓会議で共有し、試料調製方法や観察結果の解釈について活発な議論を重ねてきました。現在は共通試料第 3 弾として、HIPS（食品容器）の検討を進めています。

今回の円卓会議では、前回（7 月 22 日）に引き続き、参加者から観察事例をご紹介いただき、前処理方法や像の解釈について議論します。前回提案された改善方法を実践した結果、期待どおりの成果が得られた事例だけでなく、うまくいかなかった事例についても、その要因や課題を共有したいと考えています。また、試行できなかった場合には、その障害となった要因についても議論するなど、参加者相互で試料調製に関する知見やノウハウを共有する場としたいと考えています。

これまで RRT に参加されたことのない方でも、ご興味をお持ちであれば円卓会議にご参加いただけます。なお、講演会に参加登録された方は、RRT 円卓会議への追加申込みは不要です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【問い合わせ】

東北大学 多元物質科学研究所 陣内研究室 小林 (sachiko.kobayashi.c8@tohoku.ac.jp)

ラウンドロビンテスト世話人：三菱ケミカル 丹羽博嗣 (hirotsugu.niwa.mp@mcgc.com)